



- 宇部興産物語
- 環境安全部だより
- 工場探訪
- グループ会社紹介
- 社会貢献
- 地域の顔
- 社員登場
- クラブ紹介
- おしらせ、中央病院だより

探索中  
at UBEアイブラゲ  
ロボくん



発行：  
**宇部興産株式会社**

〒755-8633  
山口県宇部市大字小串1978-96  
宇部渉外部（電話0836-31-2111）

翼  
つばさ

石炭記念館からの展望 撮影：片桐光太郎様（宇部市）

## 環境安全部だより

### テレビで大人気

### ダブルストレーラーの

### 安全運行への取り組み

宇部興産は、総延長約30kmの日本で最も長い私道である「宇部興産専用道路」で、美祿市の伊佐セメント工場と宇部セメント工場間を結んでいます。この道路は道路交通法の適用を受けないため、一般道は走行できない巨大なダブルストレーラーを運行することができます。40トン積みトレーラー2両連結車の姿を一目見ようと、全国各地から見学者が訪れています。セメント供給の責務を果たしているこの専用道路は、市街地を迂回しているため、地域の安全を確保するための、様々な安全運行対策を講じています。

乗務員教育は助手席同乗に始まり、空車走行トレーニングを中心に1ヶ月間の訓練期間を設け、指導者の同乗による走行試験に合格したドライバーだけがあの巨大トレーラーを運転することが出来ます。

車両整備では専用の整備工場を擁し、始業前点検はもちろんのこと月次点検、年次点検によって入念な整備を行い安全輸送に務めています。また、車両の洗浄施設を設け、すべてのトレーラーを毎日、運行終了後きれいに洗浄し、環境保全にも十分な配慮をしています。さらに、専用道路内には多数のセン



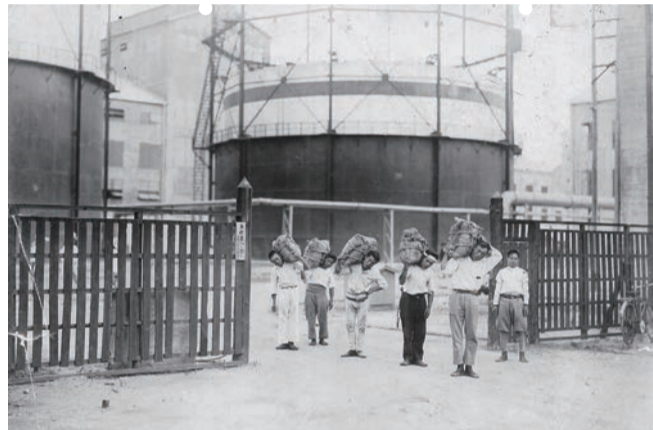
ダブルストレーラー(写真の牽引車はケンワース製)  
全長30メートル、総重量117トン。  
タイヤの数はなんと34本も。

## 宇部興産物語

宇部興産の歩みを写真で紹介するコーナー。  
第3回目は、「硫安の初出荷」です。



この写真は、昭和9年（1934年）の硫安初出荷の様子です。「宇部の石炭を利用して硫安を製造する」との構想から、7年目のことでした。近代化学工業を地元に取り入れるにあたっては、製造特許の他社による独占や膨大な資金が必要になるなど課題が多く、「宇部の事業は宇部人の手と資本で」という伝統から初めて離れ、国内外から人・技術・資本を集めることで成し遂げました。このように工夫を重ね、ようやく手にした硫安でしたが、すぐに設備のトラブルが発生し運転を停止、本格操業はその2か月後になりました。



できたばかりの硫安を担ぎ出している様子。  
当時は、手作業で袋詰めにしていました。

## 工場探訪



## 沖の山

## コールセンター



宇部地区工場群

**沿革**  
1980年10月 沖の山コールセンター開業

**工場概要**  
敷地面積：約52ヘクタール  
(常盤公園内の湖の約半分面積)  
従業員数：36人(2014年3月末日現在)

(注) コールセンターのコール(coal)は「石炭」の意味。  
電話の対応をするコールセンターのコール(call)は「電話する」の意味。

第4回目は、日本のエネルギーを縁の下で支える当社コールセンターを紹介しましょう。コールセンターとは、海外から大型貨物船で輸送してきた石炭を保管し、必要に応じて、小型船やトラックで全国のお客様に配送する物流センター（中継基地）です。国内にある21か所のコールセンターの内、当社は最大級のスケールを誇っています。広大な土地にオーストラリア、インドネシア、ロシアなどの鉱山から採掘された石炭を大量に保管し、お客様（工場や火力発電所などで燃料として使用）に年間約600万トンの石炭を配送しています。

**労働災害防止**  
コールセンターは24時間365日、大きな荷揚げ機械やトラックが稼働し、潜在的危険が多い職場です。2007年常駐協力会社と共に労働安全衛生マネジメントシステムを取得し、潜在リスクの改善や教育を実施しています。最近では安全小集団活動を通じ、担当者みずから安全に取り



油流出訓練 放水

## 環境・安全への取り組み

**環境保全活動**  
環境保全については2000年に環境マネジメントシステムを取得し、環境に配慮した運営を行っています。石炭の粉じん対策や、機械の油が海上へ流出することがないよう細心の注意を払って管理し、万一に備えて緊急事態の訓練を行っています。

**保安防災活動**  
石炭は可燃物で自然発火の可能性があり、温度管理や散水の実施、さらに広大な敷地内の夜間パトロールを実施しています。また万一に備えて火災訓練や地震・津波防災訓練も実施しています。私たちは地域に信頼されるコールセンターをめざし、社員及び協力会社一同が一体となり活動していきます。

**トピックス**  
実は当コールセンターはSL（蒸気機関車）用の石炭も多く扱っています。地元山口県のSLやまぐち号をはじめ、熊本県のSL人吉号、群馬県のSLみなかみ号、新潟県・福島県のSLばんえつ物語、SL会津只見号に続き、さらに本年4月より東日本大震災の復興支援と地域活性化のために運行を開始した岩手県のSL銀河も納入先ラインナップに新たに加わりました。これからも懐かしいSLの旅と震災復興支援を陰でお手伝いしていきます。



コールセンター長・平古場

**コールセンター長メッセージ**  
当社は炭鉱を発祥とする会社です。しかし、その炭鉱事業も既に撤退し、現在ではコールセンターの操業を開始して、日本最大の一般炭・輸入中継基地として石炭事業を復活しています。特に最近、東日本大震災に端を発した原子力発電への不安感から、火力発電の燃料として石炭の重要性が再び見直されています。地域から信頼されるコールセンターを目指して、安全衛生・環境保全・保安防災に取り組んで参ります。

